



Fibroblast Growth Factor 23 and Left Ventricular Hypertrophy in Hemodialysis Patients

著者名	齋藤 彩香
発行年	2019-06-21
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032492

主 論 文 の 要 旨

Fibroblast Growth Factor 23 and Left Ventricular Hypertrophy in Hemodialysis Patients(血液透析患者における FGF23 と LVH の関係について)

東京女子医科大学腎臓内科学教室

(指導：新田孝作教授) 印

齋藤 彩香

International Journal of Clinical Medicine 2014, 5, 1102-1110

(2014 年 9 月 Online Journal に掲載)

【要 旨】

左室肥大(LVH)は、血液透析(HD)患者における心血管死の独立した危険因子である。本研究の目的は、LVH と線維芽細胞増殖因子 23(FGF23)値の関連および血清 FGF23 値が生命予後の指標となるかを検討することである。

週 3 回（1 回 4 時間）の維持 HD を施行している 107 名の患者を被験者とし、前向きコホート研究を実施した。

血清 FGF23 値は LVH 群で 26836 ± 50169 pg/mL、非 LVH 群で 11142 ± 18618 pg/mL と LVH 群において有意に高値を示した。多変量解析では、血清 FGF23 値、収縮期血圧、血清リン値で、LVH との相関がみられた。

4 年間の観察では、年齢、透析歴、収縮期血圧、血清リン値により調整した Cox 回帰分析において、高 FGF23 群と低 FGF23 群との間で死亡リスクに有意差はなく、高 FGF23 群と低 FGF23 群における心血管疾患関連死の Kaplan-Meier 生存曲線でも、2 群間に有意差は認められなかった。

他人種も含む大きなコホートを対象に、血清 FGF23 値の経時的測定を含め、長い追跡期間を設定し更なる検討を行う必要があると考えられた。